〈東区〉2024.4

しのだ江里子（えりこ）市政だより

札幌市議会
民主市民連合
〒060-0001
札幌市中央区北1条西2丁目札幌市役所17F
TEL(011)211-3212　FAX(011)218-5121

No.45

ゆるぎない想いささえあいの東区（まち）

１月１日に発生した能登半島地震に関連して亡くなられた方々に、心より哀悼の意を表しますと共に、ご遺族と被災された皆様にお見舞い申し上げ、一日も早い復旧を祈念申し上げます。３月に入り、春を期待しましたが、連日の真冬日で、生活道路や歩道の排雪もままならず、ガタガタつるつる路面にご不便をおかけしたことと思います。あともう少しです！

ご自宅前の雪割りにご協力ください。暖かい日差しはもうそこまで来ています。

２月後半から３月にかけインフルエンザＡ型に加えＢ型が学校を中心に流行し発生警報の定点あたり目安 30 を超え、学級閉鎖も多くみられます。札幌市は小児科休日当番医の受診者数増による医療体制確保のため、札幌医師会と連携し、ドライブスルー型の発熱外来を３月 31 日まで開設しています。（**受診は臨時小児発熱外来予約フォームから**）免疫の高い食事と十分な睡眠を心がけましょう。体調の良くない時はできるだけ外出をお控えください。

新型コロナワクチン接種後、体調を崩される方が多く、国は令和５年度予算で**予防接種健康給付費負担金**（新型コロナワクチン健康被害給付）を当初の３億６千万円から補正予算で約 397 億７千万円を追加しました。2024 年２月 19 日公表の予防接種健康被害救済制度申請認定数は 2021 年２月から 6,276 件（うち死亡認定数 463 件）、申請件数は今なお毎月 300 ～ 400 件となり、これまでのすべてのワクチンによる認定数（1977. 2 ～）3,642 件（うち死亡認定数 158 件）と比較して格段に多い件数となっています。

札幌市でも厚生労働省から札幌市に情報提供があった副反応疑い報告件数（2023.12 末）は 391 件（死亡 17 件）、健康被害救済制度申請件数は 165 件（うち認定 90 件、否認５件）となっています。後遺症申請必要書類等は多様で煩雑です。

是非、**札幌市新型コロナウイルスワクチン接種お問合せセンター**にご相談ください。

011-351-8646（毎日９：00 ～ 18：00）お問い合わせの際は、「健康被害救済制度に関するお問合せ」とお伝えください。

2024 年３月

札幌市議会副議長　しのだ江里子

第１回定例市議会開会

２月 14 日から３月 26 日まで第１定例市議会が開会し、秋元市長は全会計総額１兆 9309 億円、一般会計は１兆 2417 億円、３期目初の本格予算編成を行い、過去２番目の予算規模となりました。

当初予算は中期実施計画「アクションプラン 2023」に掲げた事業に資源を重点配分し、①子ども・子育て支援②GX（グリーントランスフォーメーション）・脱炭素、経済活性化③ウェルネス（健康）、ユニバーサル（共生）④安全・安心⑤市民生活―の５つを柱に据えました。

重点施策である子育て支援では、通院医療費の助成制度を４月から「中学３年生まで」に拡大、しのだの公約であったひとり親家庭の親の通院費も住民税非課税の範囲ではありますが、助成対象に加わり、計 111 億 9500 万円を計上しました。

第２子以降の保育料については、同時入所要件を撤廃し，無償化を実施するため、4 億 5900 万円を確保しました。猛暑対策では学校へのエアコン設備に 14 億 7600 万円を充て、私立保育施設等を対象とした設置補助に 3700 万円を配分します。

学校を中心としたいじめ対策は 4 億 4100 万円とし、スクールカウンセラーの小学校への配置時間を拡充するほか、一人１台端末を活用した「心の健康観察」を導入します。

除雪関連は過去最大の 275 億 6400 万円を確保し、労務単価や燃料費の上昇に対応する他、東部水再生プラザの処理水を活用した融雪設備の整備を進めます。

秋元市長は提案説明で、「アクションプラン 2023 に掲げた取り組みを着実に進め、GX という新たな取り組みにも積極的にチャレンジするなど、札幌市が向かうべき将来への道筋をしっかりつけていく」と述べました。

「代表質問」ダイジェスト

２月 20 日には水上みか議員（北区）が代表質問を、22 日には篠原すみれ議員（白石区）が補充質問を行いました。

＜健康寿命延伸に向けた「敬老健康パス」＞

市民にとって敬老健康パス素案の内容が非常に分かりづらく、素案とはいえ、どのようなものを目指すのか、各区の意見交換会を経ても十分に伝わってこない。また、現行制度の利用者にとっては、提案の仕方も含めて非常に大きな唐突感があり、配慮に欠けている。

現行制度の利用実態の偏在を是正すべきという本市の説明には、一定の理解を示す意見も見られる一方、長年、交通費助成として利用されてきた市民からは、実態に即した配慮を求める声も多く寄せられている。

とは言え、限られた財源の中で現行のまま制度を維持することの難しさは多くの世代が共有していると考えられ、現行の利用額や自己負担額を見直しつつ、敬老パス制度を維持することも検討すべきではないかと考える。

質問：健康寿命延伸に向けた取組を進めるにあたり、現行の敬老パスを利用する方々に、どのように配慮していこうとお考えなのか、伺う。

答弁：今後の人口構造変化などを見据えると、市民が健やかに長く活躍できる健康長寿社会の実現が重要。高齢者のフレイル予防や認知症予防の観点からも、歩数や社会参加など含む日常的な活動量の見える化で健康を高める自発的な取組につなげたい。一方、制度や利用可能額が大きく変わることへの不安に配慮し、幅広い世代の理解を得られるよう、安定的に持続できる仕組みを構築する必要がある。円滑に移行していけるよう、すでに敬老パスを利用している方への経過的な措置について検討する。

＜厳冬期における健康二次被害の防止＞

冬季の災害は、積雪や路面悪化により支援物資の配送が難航する可能性や、停電等により暖房機器が使用できない恐れもあり、被災者が屋内外で低温に晒される可能性が高まる。

寒さに耐えながら限られたスペースで過ごす避難生活では、身体活動量が減少し、トイレの回数を減らしたいために食事や水分も控える傾向にあり、エコノミー症候群や血栓症等の健康二次被害を引き起こし最悪の場合、災害関連死に至ることも想定される。

本市では、厳冬期の避難所対策として、2018年の胆振東部地震によるブラックアウトを経験した教訓から、毛布、ポータブルストーブ、折り畳み式ベッドなどの備蓄物資を増強し、避難所の寒さ対策を着実に行っている。

一方、ポータブルストーブの増設だけでは、避難所となる体育館全体を温めることは困難であり、厳冬期に耐えうる設備が必要と考える。また市民に対して、健康二次被害を防ぐための防寒具や保温対策など、自助としての備えや準備を働きかけることも必要。

質問：厳冬期における避難所等での健康二次被害防止についてどのように取り組む考えなのか、伺う。

答弁：厳冬期の避難所における健康二次被害の防止を図るために、身体機能の低下につながる低体温症への対応が重要。そのため、毛布やストーブなどの備蓄物資を増強し、避難所となる区体育館では停電時にも暖房が使用できるよう新たな非常用電源設備の整備を進める。

札幌市、札幌市立大学、防災科学技術研究所と包括連携協定を締結し、厳冬期の避難所における暖かさの確保や非常食等に関する検証を進める。得られた知見を災害対策に活用し、市民に具体的な寒さ対策を情報提供し、災害対応力の向上に努める。

＜持続可能な除排雪体制について＞

建設事業者は、除排雪の主な担い手であるとともに、自然災害による復旧作業等に対応していただく、社会的インフラの維持に欠かすことのできない存在であると認識している。

一方で、積雪寒冷地という特性上、通年の工事施工が困難であり、本州などの企業に比べ、経営面で大きなハンディキャップがあると言える。

本市は、2018年度から2027年度を計画年間とする『札幌市冬のみちづくりプラン2018』に、除排雪体制の維持・安定化に向けた取組を掲げ、人材確保や労働環境の改善を進め、また、企業のＩＣＴ導入等に助成金を支出する建設産業活性化推進事業の展開や、毎年一定の建設費を予算計上して、市内建設業への発注を継続的に確保するなど経営安定化に資する取組を行ってきた。

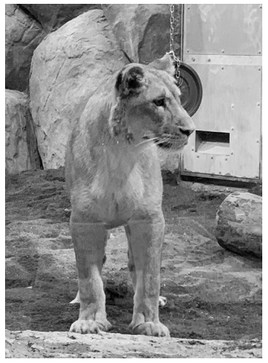
今後、長引く物価高騰や社会全体の人材不足によって、建設事業者を取り巻く環境は厳しさを増すことが予想され、事業者が将来の見通しを立てられるように、一過性ではなく、継続的に支援を行うことと同時に、刻々と変化する状況に柔軟に対応していくことが求められている。

質問：社会情勢が変化する中で、除排雪の主要な担い手である建設事業者が安定的に事業に携われるよう、今後も適切な予算措置を行うべきと考えるがいかがか、伺う。

答弁：建築事業者は、社会資本の整備・維持の他、災害復旧や除排雪を担い、地域の守り手として不可欠な存在。アクションプランでは中長期的な建設事業費見通しを示し、除雪費では人件費や燃料費に対する予算措置など対応してきた。今後も持続可能な除排雪体制を維持していくため、事業者の計画的な経営に繋がるよう、夏・冬を通じた安定的な建設事業費の確保に努める。

円山動物園視察（2024.2.26）

▲クレイ



▲イト

昨年秋の導入から、今や市民のアイドルであり、ライオンのオスと思われていたクレイが実はメスであったことが判明し、メスの旭山動物園生まれのイトとの２頭飼育展示ということにはならず、愛媛県立とべ動物園に戻ることが発表された。

同日３月１日には、とべ動物園もクレイの雌雄判定については、生後20日齢時にオスと判断したのち、成長に伴う変化の確認不十分が性別誤認の重大な原因であると反省し、事案発生後、すみやかに雌雄判定の方法について見直しを行い、今後の再発防止に取り組むことと発表し、また、円山動物園をはじめクレイを応援されている多くの札幌市民に心配などをかけたことを謝罪され、今後、クレイはとべ動物園の提案により戻ることになるとのお知らせをアップした。

この間、クレイに関しては札幌で成長するなかで、足に障害があることが判明し、多くの市民から激励を動物園にいただいている。

またライオンの繁殖については、国内のライオンの飼育状況が47園で約400頭という飽和状態にあり、動物福祉の観点から円山動物園では繁殖を行わない飼育をすることの説明が足らず、市民はじめ全国から約600通にも及ぶご意見をいただき、クレイとイトへの注目度が大変高いことを知った。

「円山動物園は、動物の飼育・展示を通じて、地域の自然から地球環境まで多くのことが学べる施設です。多くの方に足を運んでいただけるよう、引き続き、市民の意見を反映し、市民の思いを受け止める施設であり続けるよう、努力してまいります。皆様の応援をお願いいたします。」

近日オープン「オランウータンとボルネオの森」
（ドット JP インターン生たちと視察）

皆様のご意見をお寄せください

しのだ江里子事務所

〒065-0024　札幌市東区北24条東16丁目1-7
グローバリビル2F（元町駅1番となり）
Tel：011-784-1086　Fax：011-792-0081

公式HP　Facebook